



違いを認め合う心を育てる

学校長 大竹 貴子

先週の突然の降雪から一気に冬になった気がいたしますが、子どもたちは、休み時間に元気に中沢カップのフラフープくぐりや集会委員会のしっぽ取りゲームを楽しんでいます。

先週の全校遠足では、高学年の子どもたちがペアの低学年を気遣い、自分が車道側になるように手をつないで歩いたり、トイレの前で待っていてあげたりする優しい場面をたくさん見ることができ、とてもうれしく思いました。

みんなで築こう 人権の世紀
～考えよう 相手の気持ち
未来へつなげよう 違いを認め合う心～

これは、今年度の人権週間の啓発活動重点目標です。本校では、毎年、様々な面から人権についての意識を高める機会となるように、ハートフル集会を行っています。今年も12月1日に、各学年やいくつかの委員

会が、校内や地域での活動をもとに考えたことを発表したり、詩を作って発表したりします。また、ジュニアボランティアの子どもたちの発表もあります。ジュニアボランティアは、主に休みの日に活動しています。地域の子育てサロンやサマーフェスタに参加して幼児と遊んだり、一人暮らし高齢者お楽しみ会や敬老のつどい、特別養護老人ホーム訪問などで高齢者の方々と触れ合ったりする機会をいただきました。駅前で赤い羽根共同募金の呼びかけも行いました。それらの活動から、地域にはいろいろな方がいることや、ボランティアをすることで「ありがとう」と言われ、自分がうれしくなることなどを思ったようでした。ハートフル集会を通し、いろいろな人がいることや温かい気持ちで助け合うことによって相手も自分も幸せになるということを感じてもらいたいです。

少し前になりますが、久しぶりに映画を見にいきました。中沢小の保護者の方から教えていただいた「みんなの学校」という映画です。これは実際に大阪にある大空小学校の1年間にわたるドキュメンタリー映画でした。大空小には個別支援学級がありません。障害のある子もない子も自分の感情をうまくコントロールできない子も同じ教室で学んでいます。大空小の約束は一つ「自分がされて嫌なことは人にしない、言わない」ということです。もちろん毎日のようにトラブルはあります。そこで、本当に相手の気持ちを考えていたか、自分がされたらどうか考えさせます。

また、大空小では「みんな同じ」ではなく、子どもたち一人ひとりの能力や状況が違うこと、その能力に応じて努力することが大切であることを伝えていきます。問題が起こった場合も「その子が悪い」ではなく、解決するために「自分はどうしたら良いか」子どもたちが考えるようになっていきます。映画では、違いを認め合い助け合うことにより、誰もが居場所を見つけ、落ち着けなかった子どもたちも徐々に安心して生活できるようになっていました。みんな一緒に学習する中で、子どもも教職員も成長している姿は本当に素晴らしいと思えました。さらに、この映画の監督さんはインタビューで、学校の努力だけでなく、保護者や地域の皆さんがこの学校を見守り支えていることに気づいたと話していました。

本校では、2年2組がやや落ち着かない状況が続き辛い思いをしている子どもたちもいたため、11月15日に臨時懇談会を開き、保護者の皆様に現状や学校の取組を知っていただきご協力をお願いしました。

今後も、保護者の皆様、地域の皆様のご協力をいただき、違いを認め合い助け合う心を育てるとともに、子どもたちが安心できる環境を整えていきたいと思っております。よろしくお願いたします。